

活用方針



VLP取組概要



■ VLP活用のねらい

- 不登校及び不登校傾向がある児童・生徒に対して、仮想空間を活用した居場所と学習の機会を確保する
- 日本語指導については実施なし

■ 対象生徒・児童

- 適応指導教室の通室者

■ 運営時間

■ 平日 8:30～17:15

- つながりの時間 月・水曜日 10:00～12:00

適応指導教室の指導員が学びやつながりを支援する

■ 活用方法

- VLP上での関わりやつながり、Microsoft Teamsを活用してのオンラインでのつながり

活動・取組み内容



活動・取り組み内容

【前期】

- 適応指導教室に通う児童・生徒の保護者に対して案内。配信システムを使用して周知。
- 希望者に対してアカウントを配布、操作マニュアルの配布
- デキタス、ミライシード、みんなでプログラミング、e-boardの活用
- Microsoft Teamsを活用したオンラインでの個別指導
- 支援員等とのテキストチャット
- 桃太郎電鉄の導入
- まんがでわかるシリーズの導入
- オンラインイベントの企画、実施（8、9、12月）

【後期】

前期と同様

継続的にログインする利用者がいなくなり、利用実績が下がった

成果/好影響・次年度以降の方針・利用者の声

成果/好影響

- ✓ 適応指導教室に登録しているにも関わらず、本人の状況等によって、教室に通えなくなる児童生徒がいる。そうした児童生徒にとって登室が難しくなった場合にVLPなら参加がしやすい。
- ✓ VLP空間内でMicrosoft Teamsによる個別指導を実施し、適応指導教室への登室の途絶えた生徒が高校受験に向けて面接練習を行った。オンラインでの面接練習を行った後、実際に登室し、面接練習をしたいという申し出があり、対面での支援に繋がった。

次年度以降の方針

- ✓ 適応指導教室の通室者だけでなく、不登校傾向およびどこにも繋がれていない児童生徒に対してVLPの案内ができるように対象者を拡大する
- ✓ ICT支援員を区独自で配置し、VLPを含むICTを活用した学びやつながりの場をつくることに力をいれる
- ✓ 各学校やSSW、SC等と連携し、VLP支援を必要としている児童生徒の利用へ繋がられるような体制づくりを検討する

利用者の声



- 自宅の自室からVLP空間へ入室し、安心した環境で利用することができた。
- VLPに来て、話だけでなく勉強をしたいが、デキタス等で自分一人で勉強するのは問題集をやるのと同じように感じた



- チャット方式も可能であり、言葉で話すことが得意な生徒、文字書く方が得意な生徒どちらでも意思の疎通が可能なのはメリット
- VLP空間への入室や学習についての出席可否について整理されれば、利用が増えるのではないかと感じた
- 適応指導教室にも通室できていない子どもや、どこにも繋がれていない子どもを対象に事業周知していくべきだと感じた